

時事ネタ WATCH

中高年MSMと暮らし



特別編

追悼 梅田政宏さん ゲイとして、ケアマネとして



梅田政宏さんが、本年6月、急逝されました(享年56歳)。

梅田さんは、オープンなゲイで、地元の西成区でケアマネージャー(介護支援専門員)として活動されており、この日も西成区の釜ヶ崎の夏祭りの実行委員会会議に出た後の、急な旅立ちでした。

本紙「南界堂通信」やオフ企

画「南界堂茶会」にも度々出演してくれて、LGBTQが病気になった時や高齢になった時の様々な課題について、解説してくれました。

最初に本紙に登場したのは、6年半前の第14号(2016年2月)。第1面の「エイズ対策のキーパーソンたち」に「生まれ育った街だからこそ地元密着

型にこだわって…」でした。福祉関係の勤務先を辞めて地元に戻り、母にゲイであることを打ち明けて、自宅の2階にケアマネ事業所「株式会社」にじいる家族を立ち上げた経緯を話しています。

その他にも過去の本紙では、第31号(2020年6月)では、第12回南界堂茶会の「中高年世代めんど突然の入院」をテーマにして、50代脳梗塞発症のケースと、60代大腿骨頸部骨折のケースを取り上げて、医療や介護の現実を話しました。

第37号(2021年11月)では、「男朋友」で、「困窮者から

見える私たちの社会とは？LGBTの人たちの居住支援にかかわる(株)にじいる家族の梅田政宏さんに突撃インタビュー」と題して、居住支援とは何か、LGBTの困窮者が直面する課題やHIV陽性者、トランスジェンダーの個別の話もされています。

今号では、梅田さんと交流のあった4人の方に、梅田さんとの関わりや思い出を語って頂きました。梅田さんの足跡を偲び、彼が取り組んだHIV陽性者やLGBTQの生活環境を少しでも良くするという「志」を引き継いでいければ、と願います。



「老後は任せなさい」って 言ってたのに…

梅ちゃんの友達のひとり

梅ちゃん、今年の夏は狂ったように暑くてね、9月になっても残暑が厳しくて今日の最高気温は34度。陽射しが随分厳しいです。

梅ちゃん、今年の夏はいろんな所で酷い雨が降って災害が発生しました。特に東北地方は豪雨で川が氾濫して随分な被害が出て厳しい夏でした。

梅ちゃん、9月になって台風が季節になり、嫌な台風が発生し、テレビのニュースでは暴風雨に曝されている画像が流されていろんな警報や避難警告が出されています。

梅ちゃんが逝ってしまったから、世間話やら思い浮かんだ事を気楽に話しかけるようにメッセージがでなくなりました。ふと頭に浮かんだ事を梅ちゃんに伝えようとして「あっ、梅ちゃんはもう居ないんだ」と改めて気付かされしまいます。僕はものすごく梅ちゃんを頼りにしていたから、寂しいなあ、心細いなあ。ひとり取り残されてしまったような気がしてしまいます。なんであんなに急に逝ってしまったの？「老後は任せなさい」って言ってたのに。棺に眠る顔は憎らしいほど穏やかなドヤ顔で、僕は泣く事もできなかった。

虹の国でもオテンバしてるの？梅ちゃんの居ない世界を生きて行く覚悟をしないとね。梅ちゃんが居なくても虹色家族やもんね。

また会おうね。

友だちのひとりより